



7月号

令和8年6月22日 発行

四中だより

埼玉県朝霞市栄町 5-1-60

TEL(048)466-4711

Fax(048)467-4744

生き生きと学び、夢と希望を胸に、感動を実感できる学校

どんな「負け方」をするのか ～学校総合体育大会に寄せて～

おおた さだはる
校長 太田 禎治

6月25日(木)から学校総合体育大会朝霞地区予選が始まります。例年に比べて遅い地区大会開催となりました。運動部の3年生にとっては、最後の「学総」。県・関東・全国へとつながる大切な大会です。16日の壮行会では、各部の部長からこの大会に臨む、部としての目標・意気込みを聞くことができました。

さて、この3月に本校を卒業した生徒たちが残した「卒業文集」、その書き出しの一つとして「もう一度あの日をやり直せるなら…」という文章が設定されていました。入学式・スキー教室・修学旅行などなど思い出となる瞬間にもう一度もどりたいと思う生徒も多かったのですが、「学校総合体育大会の試合当日」に戻りたいと書いた生徒も多くいたのです。負けてしまった悔しさもあるのではと思います。

「あのとき、自分があのプレーをしていれば(していなければ)勝てたかもしれない…」と思う生徒もいるはずです。3年生にとっては、今回の大会がまさにその大会になるわけですから、まだだれもその瞬間を経験した人はいません。

この学校総合体育大会は「負ければ引退」となるわけです。でもちょっと考えてみてください。この大会、全国大会で優勝したチーム以外はすべて負けて終わる(引退する)のです。(もちろん、順位決定戦など勝って引退もあるかもしれませんが。) どんな勝ち方をするのかと同じくらい、どんな負け方をするのかが大切になってくるはずです。スポーツに勝敗はつきもの。負ければ悔しい気持ちが残るかもしれません。それでも、各自が持っている力、チームが持っている力をすべて出し切ることができたとすれば、中学校での競技を終える瞬間としては、最高の瞬間なのかもしれません。

生徒たちはこれまで、中学入学以来2年数か月もの間、日々練習に励んできました。「千日の鍛錬 勝負は一瞬」と言われることもあります。本番は本当に一瞬。これまで積み重ねてきた努力を、本番の一瞬に出し切れるよう集中し、自分を信じ、仲間を信じ、目標とすべきところに向かって全力を振り絞って、臨んで欲しいです。

保護者の皆様には、これまで生徒の部活動に多大なるご協力をいただきました。3年生にとっては最後の大会です。是非とも会場で大きな声援を送っていただけたら幸いです。